

鎮西学院平和大行進が芝生広場からスタート



8月8日、午前9時から、鎮西学院（大学・高校・幼稚園）の生徒学生約100人と校友会の方々が集合し、平和大行進の開会礼拝と献水式が活水中学・高等学校の芝生広場で開催されました。

芝生広場は戦前までは鎮西学院の校舎が建っていた場所で、今日では地下の壁の一部と、被爆校舎跡のモニュメントが建っています。

開会礼拝では、長崎市の田上富久市長に鎮西学院の「平和宣言」が生徒から手渡されました。田上市長は被爆経験の継承と市民としての平和への参加がこれからの若い世代の課題であると話されました。



また、湯口隆司活水校長は、鎮西学院の校舎の一部は今では地面の中にあり目に見えない形ですが、毎年この場所で水を取り、諫早に移す献水式と、今年の平和大行進を姉妹校である鎮西学院が出発式を活水で実施していることは、原爆記念日を現実的な痛みと核兵器廃絶への願いを強くできる時間であり、感謝の気持ちで迎えていると語りました。



また鎮西学院高等学校の川村正徳校長は、鎮西学院の生徒関係者140数人がこの校舎で原爆により亡くなった事実は決して忘れてはならない事実。今回の活水中高から諫早の鎮西学院までの大行進は、その追体験となる大切な行事であり、平和への願いを体現する一日となると語りました。

百数十人は9時半過ぎに活水中高のある宝栄町を出発し、鎮西学院の到着は午後3時過ぎになる予定。

